

雁屋遺跡

発掘調査速報展



2011. 1
四條畷市教育委員会



第1図 雁屋遺跡調査地位置図
(広域図…1:10,000、拡大図…1:2,500)

1、雁屋遺跡の位置と概要

雁屋遺跡は、四條畷市雁屋北町から江瀬美町・美田町にかけて所在する遺跡です。遺跡は府立四條畷高校を中心にして東西約 800m、南北約 500m の広さが想定されています。

雁屋遺跡はこれまでに何回か調査が行われており、弥生時代前期から後期まで続くこの地域の拠点的な集落です。主な調査をあげれば、1983 年には旧日本道路公団の職員住宅（現在のえせび幼稚園の向かい）建設に伴って初めて遺跡を調査し、弥生時代前期（およそ 2400 年前）の土器や石器などが見つかりました。1985 年には旧駒生会病院（現遊々館）建設に伴って調査し、弥生時代中期（約 2100 年前）の方形周溝墓 4 基や、後期（およそ 1800 年前）の円形周溝墓や竪穴住居が見つかりました。弥生中期の方形周溝墓の溝からは、水銀朱を塗った土器や渦巻きの紋様がついた木でできた容器が見つかっていて、前者は平成 22 年に、後者は平成 21 年に指定された市の指定有形文化財です。1986 年に四條畷高校の敷地内で大阪府教育委員会が行った調査でも、弥生時代後期の川や、中期の方形周溝墓が見つかっています。1992 年に府立保健所の改築に伴い行った調査では、弥生時代中期の竪穴住居や方形周溝墓、弥生後期の竪穴住居が見つかりました。同じ中期でも方形周溝墓より竪穴住居のほうが古いものでした。方形周溝墓の溝からは鳥の形の木製品が見つかっています。

雁屋遺跡では、主に遺跡の東側が多く調査されていて、遺跡の西側がどうなっているかはこれまであまり分かっていませんでした。今回の調査は、その西側を調査することができたという点で、重要な調査になりました。

2、調査の経緯

江瀬美町 7 番の旧南野ゴルフセンター跡地において、住宅地の開発が行われることになり、その場所が雁屋遺跡の範囲内であったため、平成 22 年 8 月 19 日に四條畷市教育委員会に届出が提出されました。開発地の中央には道路が設置される予定であったため、その道路部分に発掘調査が必要になり、平成 22 年 10 月 12 日から 12 月 14 日まで調査を行いました。

3、発掘調査でわかったこと

発掘調査では、昔の人々が生活していた面（遺構面）が全部で4つあることがわかりました。以下、主な遺構（昔の人が生活していた痕跡）を中心に、新しいものから順に説明していきたいと思います。

第1遺構面 弥生時代後期（およそ1800年前）の生活面です。調査区の中央やや南付近にあった穴（土坑と呼んでいます）から、たくさんの土器が出土しました。その中には、完全な形のままの土器がいくつも含まれていました。また、調査区の一番南側でも、完全な形の土器がいくつも入っている穴が二つありました。これらが何のための穴なのかについては、まだよく分かりません。

第2遺構面 これも弥生時代後期の生活面です。調査区の一番南側には細い川が流れていたようで、その中からは破片になった大量の土器が出土しました。

第3遺構面 弥生時代中期後葉（およそ1900年前）の生活面です。この面では、調査区の一番北側に溝があり、その中にさらに一段と深くなった箇所があって、その中から完全な形の壺や、イノシシの下あご、シカのあごなどの動物の骨などが出土しました。壺の中には、植物の繊維のようなものが入っていました。その少し南には、直径30cmほどの大きな柱^{はしら}が二本立っていて、そこには建物があった可能性があります。

調査区の中央よりやや南よりの位置には、作りかけの木の道具をためていたと思われる「プール」^{くわ}があって、そこにあった木材の中にはまだ完成していない鍛なども含まれていました。この「プール」を囲むように、まっすぐ並んだ柱の短い列がいくつもあり、この柱の列は木の柵^{さく}で、柵を何重かに組み合わせて、この木材プールの囲いにしていたのではないかと考えています。

第4遺構面 これも弥生時代中期後葉の生活面です。この面には小さな穴がたくさんありました。直径10cmくらいの非常に小さいものまでありました、その性格はまだよく分かりません。

4、出土したものについて

今回の調査で出土したものはたくさんありますが、そのうちの特徴のあるものについて簡単に説明したいと思います。

土器 今回の調査で最も多く出土しました。煮炊きに使った壺^{かめ}や、壺^{つぼ}、高い

たかつき 脚のある高壙、土器を乗せる台の器台等が見つかりました。中には、全体に穴があけてあって何に使ったのか不明な土器や、ミニチュアの土器もありました。

石器 矢の先につける矢尻や、稲穂をつんだ石庖丁、砥石などが見つかりました。特徴的なものとしては、剣の形をした石器ではないかと考えられる破片や、石棒というお祭りの道具ではないかと考えられるものがありました。

木製品 錆や鋤の頭の部分や、タモ網(魚をすくう網)のようなものの枠の一部ではないかと考えられるものが見つかりました。

5、おわりに

現時点で分かっている成果は以上です。資料は現在整理中ですので、今後さらに成果が出てくることが予想されます。

この調査では、フジ住宅株式会社、アルファ・プランニング、株式会社島田組に多大なるご協力をいただきました。この場をお借りしまして、厚く謝意を表したいと思います。

付編、用語解説

弥生時代 今からおよそ2500年前から1750年前にかけての時期をさします。一般的に、稻作がはじまり、身分の差が広がっていって各地にリーダーが生まれ、やがて「国」へと発展していく時代になります。この時代の一一番終わりのころには、有名な邪馬台国の女王卑弥呼が活躍したと言われています。

遺構 家の跡や、柱を立てていた穴、何かを埋めた穴など、昔の人が生活していた痕跡のことをすべてあわせて言います。

方形周溝墓 この地域でよくみられる、四角形に溝を掘り、掘った土を真ん中の四角形の部分に積み上げて作るお墓です。一人の人が葬られるのではなく、血縁関係のある家族を中心に何人の人が埋葬されたお墓です。

竪穴住居 円形や四角形に穴を掘って、その土をその穴の周りに積み上げ、そのうえにワラ葺きや土葺きの屋根をかぶせた家です。

水銀朱 硫化水銀の鉱物です。鮮やかな赤色をしています。弥生時代の人々はこれを神聖な色と見ていたのか、当時の祭りによく用いられています。



第2図 第一遺構面
土坑内遺物出土状況



第3図 第三遺構面 木材「プール」



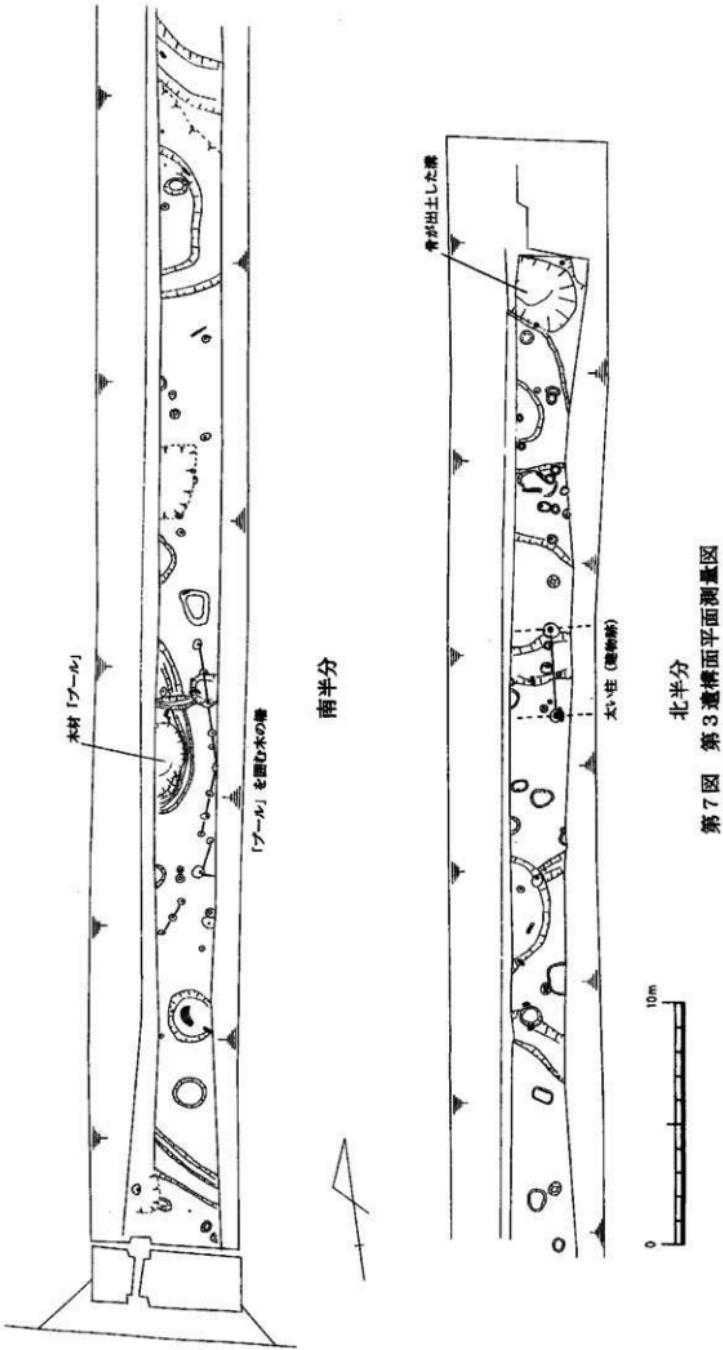
第4図 第三遺構面 プールを囲む柵



第5図 「石棒」出土状況



第6図 タモ網枠出土状況



第7図 第3 terrace平面測量図



四條畷市立歴史民俗資料館 雁屋遺跡発掘調査速報展

平成 23 年 1 月 5 日～3 月 21 日

雁屋遺跡 発掘調査速報展

編集・発行 四條畷市教育委員会

発行日 平成 23 年 1 月